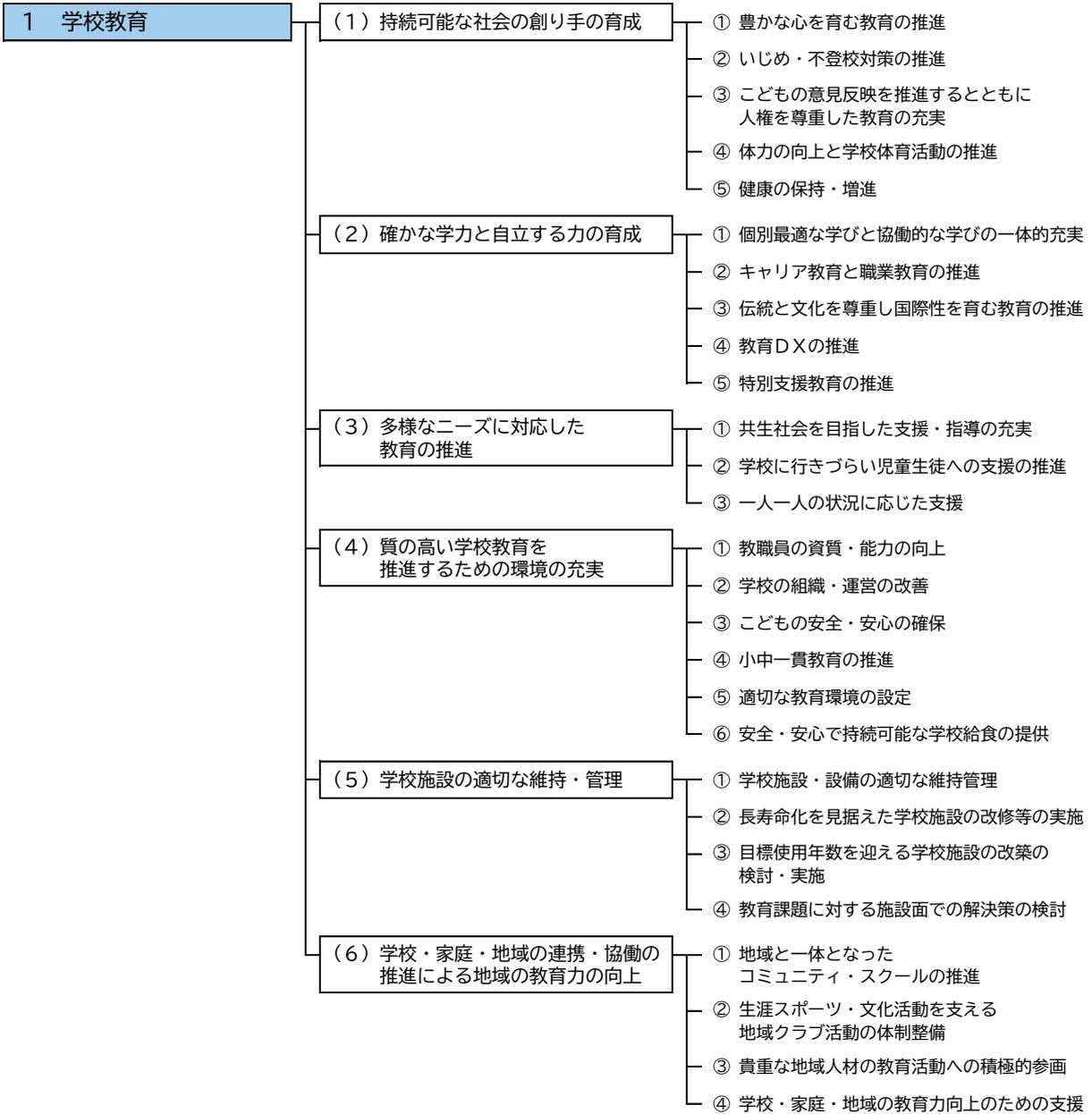
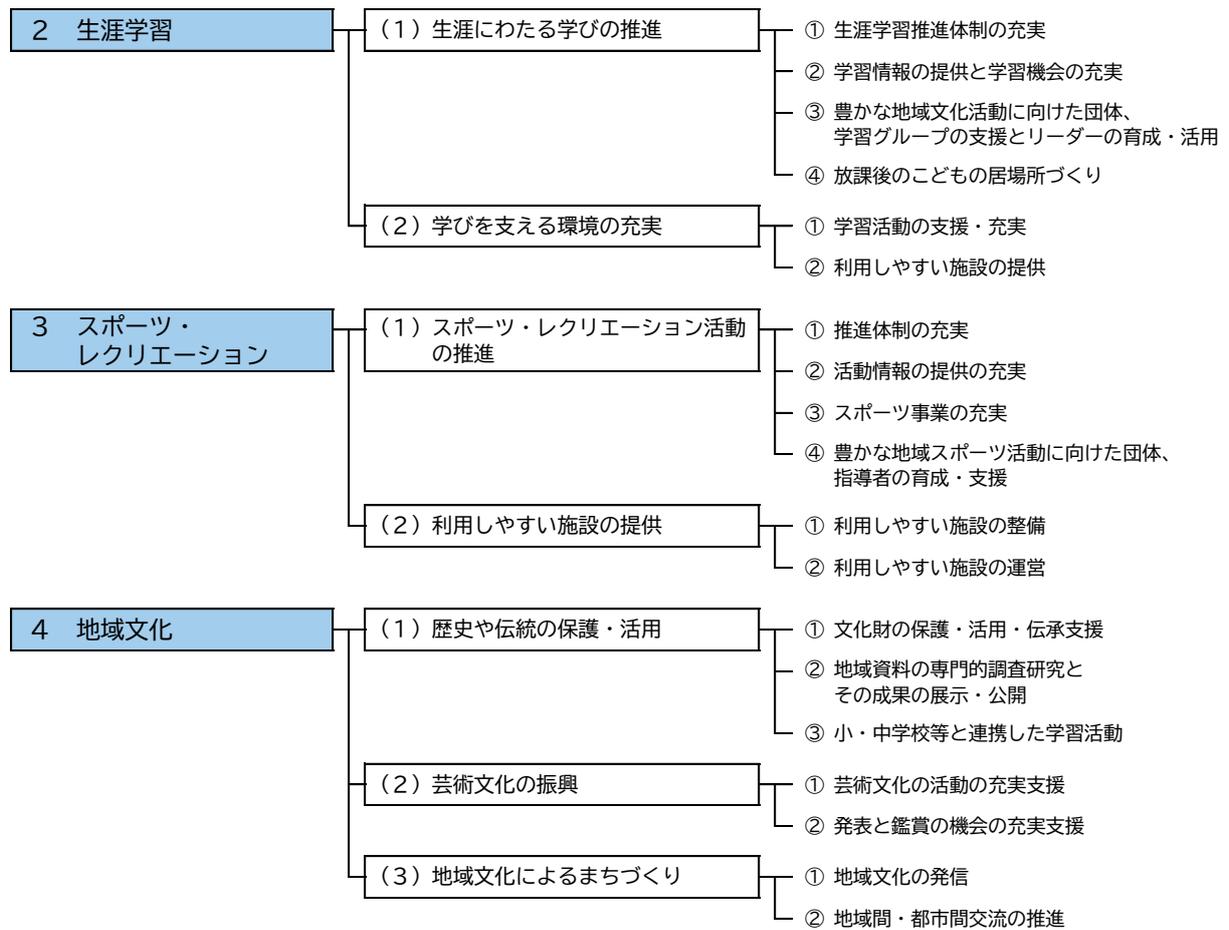


第6次朝霞市総合計画前期基本計画（素案）

第3章 教育・文化



第3章 教育・文化





1 学校教育

《目指す姿》

こどもに豊かな心と健やかな体を育むとともに、「令和の日本型学校教育」の理念に基づく個別最適な学びと協働的な学びにより社会の創り手となる力を身に付け、質の高い学校教育を支える教育環境が充実したまちを目指します。

また、学校・家庭・地域が相互に連携・協働し、地域全体の教育力が向上しているまちを目指します。

具体的な施策

（1）持続可能な社会の創り手の育成

主担当課：教育指導課

《現状と課題》

児童生徒一人一人の豊かな心と健やかな体の育成を目指し、発達段階に応じた支援や教育活動を行っています。

こどもが将来、社会の形成者となるためには、自己肯定感や規範意識をしっかりと育むことが大切です。

また、不登校児童生徒の背景や家庭の考え方が多様化してきており、個々の状況に応じた誰一人取り残されない教育を進めていく必要があります。

《成果指標》

指標名(単位)・説明	
■県学力・学習状況調査の質問紙調査における「将来の夢や目標をもっていますか。」の回答状況(%) 「もっている」、「どちらかといえばもっている」の回答の割合。	
現状値(R6見込)	目標値(R12)
92	100

① 豊かな心を育む教育の推進

体験活動を取り入れた教育を充実させるとともに、道徳教育と読書活動の充実を図り、自己肯定感の向上を図ります。

規律ある態度のほか、協働性を育成し、豊かな心を育みます。

② いじめ・不登校対策の推進

各校の現状に応じて、いじめ防止基本方針の策定と見直しを図っていきます。

組織的かつ迅速で、きめ細やかな相談体制の構築に努めます。

③ こどもの意見反映を推進するとともに人権を尊重した教育の充実

学校教育全体を通して、こどもの意見を聴取し、教育活動に反映するとともに、人権感覚を養う取組を行っていきます。

併せて、庁内の関係課と連携した人権教育を推進していきます。

④ 体力の向上と学校体育活動の推進

各校における新体力テストの結果に基づき、体力向上につながる取組を実施していきます。

体力向上推進委員会を核とした体育授業研究会を実施し、体育・保健体育科における指導力の向上に努めていきます。

⑤ 健康の保持・増進

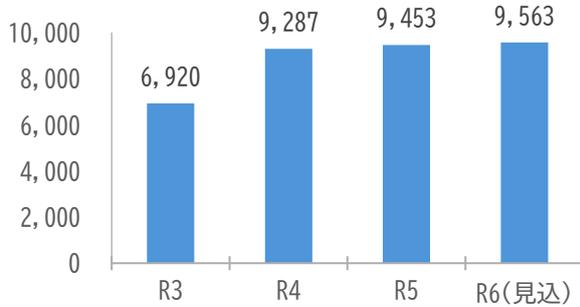
健康診断を実施して児童生徒・教職員の健康の保持・増進を図ります。

【関連する個別計画等】

- ・第3期朝霞市教育振興基本計画（令和8年度～令和12年度）
- ・朝霞市学校施設長寿命化計画（令和8年度～令和47年度）
- ・朝霞市教育大綱（令和8年度～令和12年度）

<参考実績値>

人権作文応募者数(人)



指標名(単位)	R3	R4	R5	R6(見込)
教育委員会アンケート「学習することが楽しい」の回答ABの割合(%)	-	-	-	70
いじめの解消率(小/中)(%)	100/94.4	100/96.3	100/100	100/100
新体力テスト総合評価ABCの割合(上段:小学校、下段:中学校)(%)	74.8 82.1	74.4 81.2	74.7 80.1	75.0 80.2
むし歯のうち治療を終えた歯の数の割合(小学校)(%)	74.9	78.4	78.3	75.2
むし歯のうち治療を終えた歯の数の割合(中学校)(%)	73.9	72.7	76.5	77.3

《成果指標》

指標名(単位)・説明	
■埼玉県学力・学習状況調査において「学力を伸ばした児童生徒の割合」達成状況(教科) 埼玉県学力・学習状況調査における「学力を伸ばした児童生徒の割合」が県平均を上回った教科数(小5・6、中1・2:国語・算数及び数学、中3:国語・数学・英語) ※11教科中の達成数	
現状値(R6見込)	目標値(R12)
11/11	11/11

① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

指導の個別化及び学習の個性化を図ることにより、一人一人の資質・能力を高める教育を進めていきます。

また、他者と協働して異なる考えを組み合わせながら、課題を解決できる力を育てます。

② キャリア教育と職業教育の推進

小学生は、多様な職業に触れる機会を設定していきます。

中学生は、社会体験チャレンジの内容等を充実していきます。

併せて、キャリアパスポートの活用を促進していきます。

③ 伝統と文化を尊重し国際性を育む教育の推進

各校の実態に応じた伝統文化や国際理解に関する、総合的な学習の時間における年間指導計画を充実していきます。

(2) 確かな学力と自立する力の育成

主担当課：教育指導課

《現状と課題》

児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けることができるよう、「令和の日本型学校教育」の方針に基づいた授業改善を推進しています。

また、人との関わりの中で自分の価値を見出し、社会での職業や勤労についてしっかりとした認識を持てるよう支援しています。

さらに、特別な支援を必要とするこどもが、望ましい支援を受けて社会的に自立できる教育が求められています。

④ 教育DXの推進

教育や学習のリソースとしてのデジタル活用や、教育データの利活用など、教育におけるICTの活用が日常化するよう、取り組んでいきます。

具体的にはAI搭載ドリルの活用のほか、子どもたちが主体的に学びながらタブレット端末を活用し、多様な他者とつながって学習を深めていくなど、自ら計画を立て、課題解決を進めていくことのできる「自立した学習者」を育成します。

また、校務支援システムにより、教職員の業務の効率化を図ったり、生徒指導を充実させたりしていきます。

⑤ 特別支援教育の推進

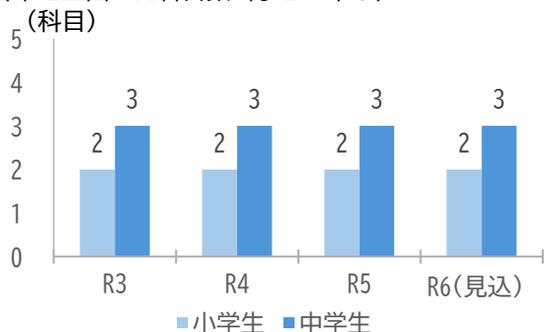
教職員を対象とした、特別支援教育の研修を充実していきます。

また、子ども一人一人の障害や特性に応じた就学支援を推進していきます。

生活や学習上の困難を改善し、児童生徒の持つ力を伸ばすために個に応じた適切な指導・支援を行っていきます。

<参考実績値>

全国学力・学習状況調査における平均回答率を上回った科目数（小2・中3）
（科目）



指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
職業体験施設数(施設)	—	318	334	330
文化財・博物館の利用やその資料を活用した回数(回)	17	16	13	13
教職員が授業でICTを活用して指導する能力(%)	83.58	70.83	85.28	85.5
通常の学級における特別な配慮を要する児童に係る個別の支援計画の作成率(%)				88

(3) 多様なニーズに対応した教育の推進

主担当課：教育指導課

《現状と課題》

特別な支援を必要とする子どもをサポートする各種支援員の人的配置が求められています。

また、子どもを取り巻く環境を鑑みて、個に応じた学びを保障していくことが求められています。

《成果指標》

指標名（単位）・説明	
■学校に行きづらい児童生徒へのICT支援実施率(%) 学校に行きづらい児童生徒にAIドリル等を通して教育を継続するなどICT支援を実施した割合	
現状値（R6見込）	目標値（R12）
40	90

① 共生社会を目指した支援・指導の充実

共生社会の形成に向け、子どもたちがそれぞれの長所を認め合い、互いに高めあう教育に取り組みます。

また、各種支援員による、個に応じた指導・支援を充実させるとともに、多様な学びの場を整備することにより、インクルーシブ教育を進めていきます。

② 学校に行きづらい児童生徒への支援の推進

近年、様々な背景を持つ子どもが増加傾向にあることから、家庭・地域・関係機関との連携を図りながら、居場所づくりを進めていきます。

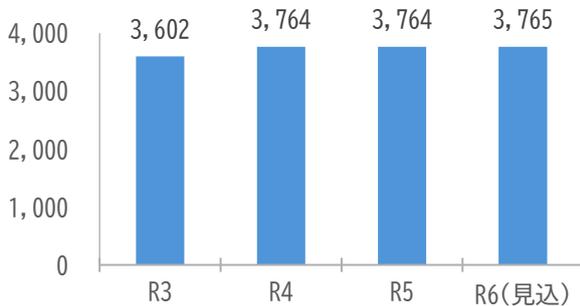
個に寄り添った相談体制が充実するよう努めます。

③ 一人一人の状況に応じた支援

子どもを取り巻く様々な環境を鑑みた支援（就学援助、入学金貸付、日本語指導・医療的ケア・ギフテッド・ヤングケアラーへの対応等）を行っていきます。

<参考実績値>

通常学級における特別な支援を要する
児童生徒支援員の活用回数(回)



指標名(単位)	R3	R4	R5	R6(見込)
通級指導教室・特別支援学級の充足率(%)	-	-	-	100
学校に行きづらい子どもが、教室以外の学ぶ場につながっている割合(オンライン、フリースクール、適応指導教室等)(%)	-	-	-	70

(4) 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

主担当課：教育指導課

《現状と課題》

変化の激しい社会をたくましく生きこどもを養うため、教職員の資質向上に努めるとともに、働き方改革を推進しています。

地域の中で信頼される学校となるために、教職員による不祥事を根絶する必要があります。

また、児童生徒のニーズに応じた多様な学びが効果的・効率的に進められるよう、教育環境を整える必要があります。

児童生徒の健やかな成長を支えるため、適切な運営により学校給食を提供していく必要があります。

《成果指標》

指標名(単位)・説明	
■教育委員会アンケート(こども対象)において「学校はICTを活用した教育を推進している」の回答状況(%) 「そう思う」「どちらかというと思う」の回答の割合	
現状値(R6見込)	目標値(R12)
70	90

① 教職員の資質・能力の向上

教職員一人一人が果たすべき使命をしっかり意識し、誇りと気概を持って職務に励むよう、県教育委員会の示す「不祥事防止研修プログラム」を活用したり、教科指導や学級経営等における専門的な知識を持った外部講師を招聘したりするなどして、教員研修を充実させていきます。

② 学校の組織・運営の改善

県教育委員会と連携して、代替を含む教職員の適正配置に努めるとともに、業務の効率化を図り、時間外勤務等の削減等により、学校における働き方改革を進めます。

③ こどもの安全・安心の確保

交通指導員を配置し、立哨指導することで児童生徒が安全に登下校できるよう努めます。

様々な災害を想定し、自分の命は自分で守る術を学ぶ避難訓練を実施していきます。

④ 小中一貫教育の推進

9か年を見通した教育課程の作成を進めていきます。

さらに、幼・保・小・中の連携を強化し、丁寧に接続していくことで、切れ目のない支援を行っていきます。

⑤ 適切な教育環境の設定

児童生徒が効果的・効率的に学習ができるよう、教材や図書、通信ネットワーク等の整備を図ります。

⑥ 安全・安心で持続可能な学校給食の提供

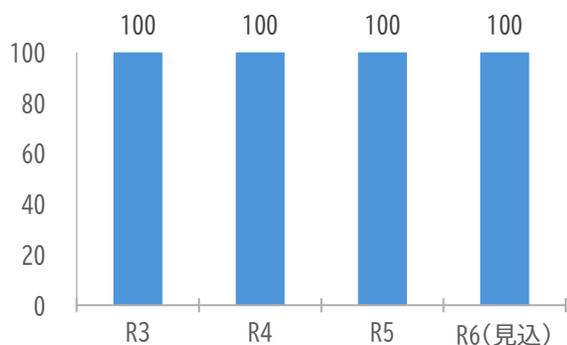
保護者等から徴収する学校給食費を適正に運用し、安全・安心な給食の維持に努めます。

学校給食センターの正規調理員が減少していく中、学校給食センターの適切な運営を検討します。

老朽化していく学校給食センターの施設・設備及び自校給食室の整備の適切な維持管理・更新を行うとともに、大規模な学校施設の改修・改築に合わせ、自校給食室を推進します。

<参考実績値>

学校給食の安定した提供の達成率(%)



指標名(単位)	R3	R4	R5	R6(見込)
県から表彰された教職員(はつらつ・れんたつ先生)の人数(人)	0	1	1	1
時間外在校等時間年360h以内かつ、年間を通じ月45h以内の教職員の割合(%)			39.5	45
立哨実施箇所事故件数(件)	1	0	0	0
中学校区ごとのふれあい推進会議の開催回数(年)(回)	0	0	0	15
校務用LAN稼働率(小学校/中学校)(%)	100	100	97.1/95.9	100

(5) 学校施設の適切な維持・管理

主担当課：教育総務課

《現状と課題》

安全・安心かつ快適な教育環境を目指し、施設及び設備を適切に維持管理するとともに、老朽化した学校施設の改築や改修、加えて設備の修繕等を計画的に実施する必要があります。

過大規模校・不登校対策・プール指導のあり方などの教育課題に対して、施設面での対応策を検討していく必要があります。

《成果指標》

指標名(単位)・説明	
■学校施設長寿命化計画の進捗率(%) 学校施設長寿命化計画に基づく進捗率	
現状値(R6見込)	目標値(R12)
—	12.5

① 学校施設・設備の適切な維持管理

標準耐用年数を超えた設備については、改修を計画的に実施します。

また、設備機器等の保守点検や法定検査を実施します。

維持管理上必要な清掃業務や保安管理を行うとともに、学校運営に必要な光熱水費や土地借上げを行います。

② 長寿命化を見据えた学校施設の改修等の実施

学校施設長寿命化計画に基づき、計画的に改修等を実施します。

改修等の実施に当たり、バリアフリー化など改修方法について検討します。

③ 目標使用年数を迎える学校施設の改築の検討・実施

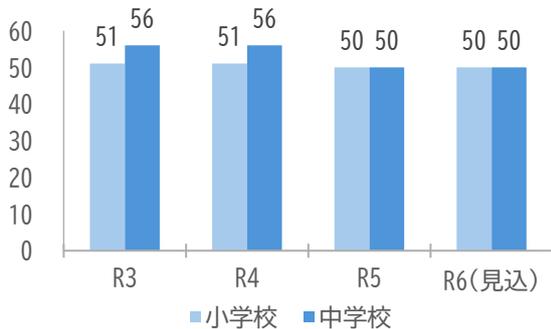
学校施設長寿命化計画に基づき、目標使用年数(80年)を迎える学校施設について、改築時期、改築対象校舎、改築規模、目指す教育の実現に必要な施設形態などについて検討します。

④ 教育課題に対する施設面での解決策の検討

過大規模校、不登校対策、プール指導のあり方などの教育課題に対する施設面での解決策を検討します。

<参考実績値>

指摘事項改善率（小学校・中学校）（％）



指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
学校施設長寿命化基本方針に基づく着手校(-)	-	二中設計	二中工事・ 十小設計	十小工事
目標使用年数を迎える教育施設についての検討(-)	現状分析	現状分析	現状分析	長寿命化計画への改訂着手
教育課題に対する施設面での検討(-)	検討	検討	検討	検討

(6) 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上

主担当課：教育管理課

《現状と課題》

各校に学校運営協議会が設置されたことにより、今後は地域、保護者、学校のさらなる協働による学校づくりを進めていく必要があります。

また、各校において様々な専門的分野の知識や技能を有する市民と協議の上、特色ある学校づくりを進めるとともに、家庭教育学級に対しても引き続き支援していく必要があります。

部活動の地域移行については、国のガイドラインを基に、関係課と連携を図りつつ体制を構築していくことが求められています。

《成果指標》

指標名（単位）・説明	
■学校運営協議会の会議回数（回） 市内各小・中学校の学校運営協議会において1年間に開催した会議回数	
現状値（R6見込）	目標値（R12）
45	75

① 地域と一体となったコミュニティ・スクールの推進

地域の人々と目標やビジョンを共有し、「地域とともにある学校」を構築するとともに、学校を核とした協働の取組を通じ、地域の将来を担う人材を育成します。

② 生涯スポーツ・文化活動を支える地域クラブ活動の体制整備

中学校の部活動を地域クラブ活動に移行していくため、関係機関や庁内の各課と連携し、体制を整備します。

③ 貴重な地域人材の教育活動への積極的参画

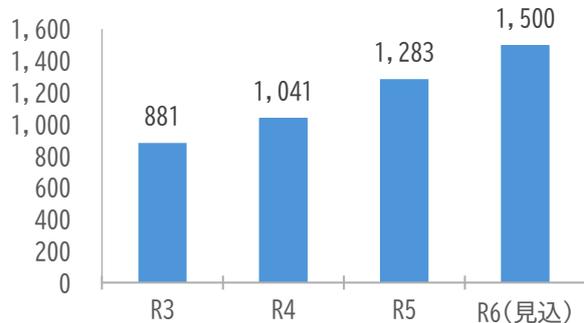
経験豊富な地域人材を確保し、積極的に学校教育に携わる取組を通して、魅力ある学校づくりを推進します。

④ 学校・家庭・地域の教育力向上のための支援

家庭や地域の教育力の向上を図るため、子育てに関する団体やPTA等の関係団体、地域住民の活動を支援します。

<参考実績値>

学校教育に携わる地域の方の人数（部活動除く）（人）



指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
学校運営協議会研修会の参加者数(人)	0	58	48	60
部活動に携わる地域の方の人数(人)	20	29	41	45
家庭教育学級参加者数(人)	723	321	449	500



2 生涯学習

《目指す姿》

市民のニーズに応えた学習、文化活動など、情報の提供や活動を通して「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」、生涯にわたって行う「学び」を支え、その成果を生かすことができるまちを目指します。

具体的な施策

(1) 生涯にわたる学びの推進

主担当課：生涯学習・スポーツ課

《現状と課題》

デジタル化が進展する社会において、ICT等を活用した効果的な生涯学習が展開されるよう、多様な学び・学び合いの機会を充実する必要があります。

平日の放課後や長期休業期間中に子どもが安心して様々な学びに取り組めるよう、学校の余裕教室等を活用した居場所づくりの充実を図る必要があります。

子どもたちが将来にわたって、文化芸術活動に親しむ機会を確保するため、学校と地域が連携した文化クラブ活動に向けた支援が必要です。

《成果指標》

指標名(単位)・説明	
■事業参加者満足度(%)	
生涯学習各種事業における満足度	
現状値(R6見込)	目標値(R12)
92.8	95.0

① 生涯学習推進体制の充実

各種計画や事業の進捗管理を行い、本市における総合的な生涯学習体制の整備充実を図ります。

市民の生涯学習活動への積極的な参加を促し、地域における学びのネットワークづくりを支援します。

② 学習情報の提供と学習機会の充実

市民の学習ニーズに応えた学習や情報の提供を行うとともに、活動の場の充実を図り、ICT等を活用した「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」学べる生涯学習環境の整備を進めます。

③ 豊かな地域文化活動に向けた団体、学習グループの支援とリーダーの育成・活用

市民や学習団体の主体的な学習活動を尊重、支援するとともに、学習の中心となるリーダーの人材育成と活用を進め、家庭・学校・地域、様々な団体との連携による取組を推進します。

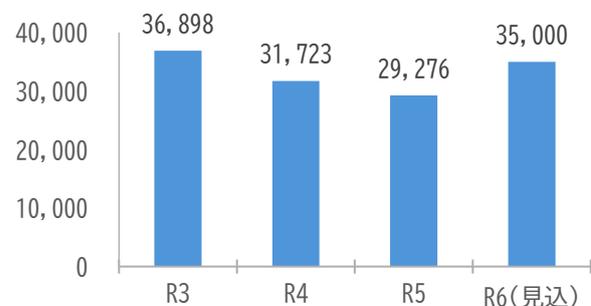
公民館や図書館などにおける主催事業においても市民が主体となる学習プログラムづくりを進めていきます。

④ 放課後のこどもの居場所づくり

平日や長期休業期間中の子どもたちの学びや居場所づくりのため、学校の余裕教室等を活用し、放課後子ども教室の充実を図ります。

<参考実績値>

事業参加者数(人)



【関連する個別計画等】

- ・第3次朝霞市生涯学習計画（平成29年度～令和8年度）
- ・第3期朝霞市教育振興基本計画（令和8年度～令和12年度）
- ・朝霞市教育大綱（令和8年度～令和12年度）
- ・第4次朝霞市立図書館サービス基本計画（令和8年度～令和12年度）
- ・第4次朝霞市子ども読書活動推進計画（令和8年度～令和12年度）

指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
事業参加者満足度(%)	93.5	93.1	92.8	92
生涯学習体験教室開催テーマ数(テーマ)	22	30	30	22
放課後子ども教室実施学校数(校)	6	6	6	6
部活動に携わる地域の方の人数(謝金対応)(人)	20	29	41	45

(2) 学びを支える環境の充実

主担当課：中央公民館

《現状と課題》

通信機器の普及・デジタル化をはじめ、情報ツールや学習方法等が多様化している中、市民ニーズの把握に努め、より効果的な事業の実施や適切な資料の収集・提供を行うなど、学習活動の推進と利用者の満足度の向上に努める必要があります。

生涯学習活動拠点として、適切な老朽化対策や社会状況に応じた環境整備を行い、利用者が安全・安心・快適な環境の中で学習できるよう効果的な施設運営を行っていく必要があります。

《成果指標》

指標名（単位）・説明	
■公民館、図書館、文化財課が行う生涯学習事業の参加者総数(人)	
公民館、図書館、文化財課が行う生涯学習事業の参加者総数	
現状値（R6見込）	目標値（R12）
35,000	40,000

① 学習活動の支援・充実

市民の学習活動の拠点となる公民館、図書館及び博物館は、市民の学習ニーズに応える役割を担っています。急速に進む情報通信機器の普及によるデジタル化への対応を含め、多様化する学習ニーズを把握し、社会的課題に対応した事業（講座・講演会）を実施します。

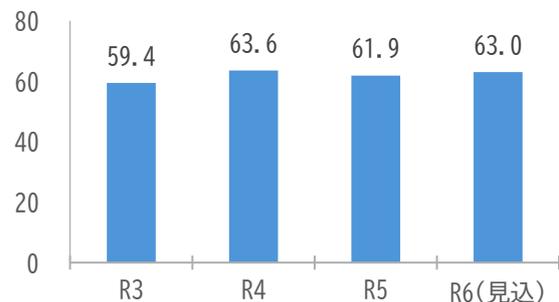
誰もが気軽に利用でき、生涯学習の拠点となるよう司書や学芸員などの専門職を配置し、職員研修を通じた職員の資質向上を図り、質の高いサービスの提供に努めます。

② 利用しやすい施設の提供

市民が行う生涯学習活動に対して、安全・安心な施設提供により、学習機会が保てるよう計画的な改修等を進めるとともに、誰でも快適に利用できる施設管理を推進します。

<参考実績値>

公民館利用率(%)



指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
博物館企画展示等開催回数(回)	7	7	7	6
図書館利用者満足度(%)	92.6	84	83.3	85



3 スポーツ・レクリエーション

《目指す姿》

スポーツ・レクリエーション施設、事業が充実し、新たな指導者が育ち、市民がいつでもどこでも気軽にスポーツ・レクリエーションに親しめるまちを目指します。

具体的な施策

(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進

主担当課：生涯学習・スポーツ課

《現状と課題》

スポーツ・レクリエーション活動は、市民の健康づくりや交流の場として重要な役割を果たしています。

本市では、市民スポーツ教室や指定管理者による教室などを開催し、市民がスポーツを行うきっかけづくりに取り組んでいるところですが、より積極的な広報や種目・開催方法等の見直しが必要です。

子どもたちが将来にわたって、スポーツ活動に親しむ機会を確保するため、学校と地域が連携したスポーツクラブ活動に向けた支援が必要です。

《成果指標》

指標名(単位)・説明	
■週1回以上スポーツを行っている人の割合(%) ここでの「スポーツ」には、ウォーキングや体操、レクリエーション活動などを含む。	
現状値(R6見込)	目標値(R12)
48.4	60.0

① 推進体制の充実

市民がいつでもどこでも気軽にスポーツ・レクリエーションに親しむことで、健康でいきいきとした生活を送れるよう、スポーツ関係団体や学校・民間企業などと連携し、スポーツ・レクリエーションの推進を図ります。

② 活動情報の提供の充実

広報紙、ホームページのほか、SNSなど多様な伝達手段を活用し、積極的な情報発信に努めます。

③ スポーツ事業の充実

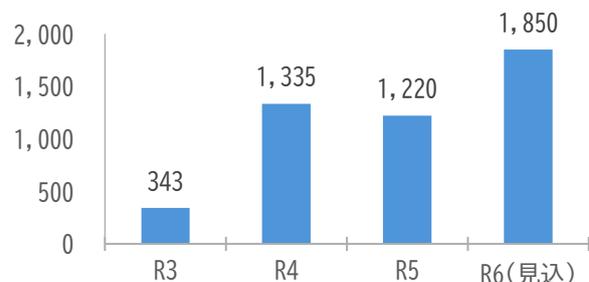
多くの市民がスポーツ・レクリエーションに親しむきっかけとなるよう、市民やスポーツをする方の声を聴きながら、スポーツ事業の充実に図ります。

④ 豊かな地域スポーツ活動に向けた団体、指導者の育成・支援

あらゆる世代が地域のスポーツ活動に参加できるように、地域・学校及び関係団体と連携して活動の指導者の育成・支援を図るとともに、団体の活動を充実させるための取組を進めます。

<参考実績値>

スポーツ教室・大会の参加者数(人)



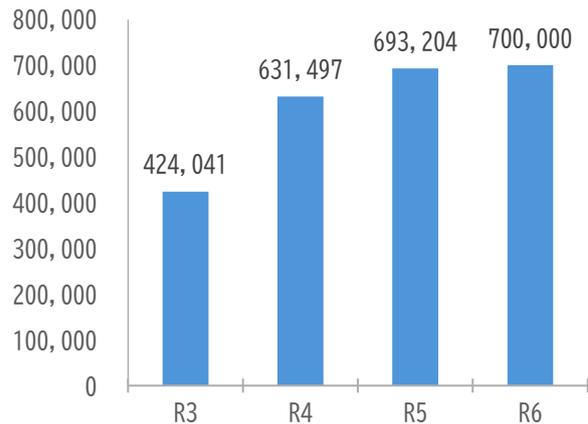
【関連する個別計画等】

- ・第2期朝霞市スポーツ推進計画（令和3年度～令和12年度）
- ・第3期朝霞市教育振興基本計画（令和8年度～令和12年度）
- ・第3次朝霞市生涯学習計画（平成29年度～令和8年度）
- ・朝霞市教育大綱（令和8年度～令和12年度）

指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
市民スポーツ大会参加者数(人)	-	3,000	5,000	5,500
スポーツ教室・大会の開催回数(回)	5	8	10	8
種目別大会(種目数)	14	17	21	20
部活動に携わる地域の方の人数(謝金対応)(人)	20	29	41	45

<参考実績値>

公園体育施設利用者数(人)



(2) 利用しやすい施設の提供

主担当課：生涯学習・スポーツ課

《現状と課題》

安全・快適で利用しやすい施設となるよう、老朽化施設の計画的な長寿命化改修を進めるとともに、定期的な点検による適切な維持管理が必要です。

《成果指標》

指標名（単位）・説明	
■スポーツ施設（14施設）の利用率（%） 総合体育館・野球場・陸上競技場・テニスコートなど、市の主要スポーツ施設の平均利用率	
現状値（R6見込）	目標値（R12）
60.3	63.0

指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
総合体育館利用者数(人)	138,343	260,627	333,362	320,000

① 利用しやすい施設の整備

老朽化したスポーツ施設の計画的な改修を進めるとともに、誰もが安全・快適に利用できるよう、施設のユニバーサルデザイン化を推進します。

② 利用しやすい施設の運営

誰でも気軽に利用しやすいスポーツ施設を目指し、利用者の声を反映した運営や予約システムの適切な運用を行うことなどにより、サービスの向上と効率的な管理運営に努めます。



4 地域文化

《目指す姿》

市民が芸術文化活動の成果を発表できる場と機会が確保され、様々な芸術文化にふれあうことができるとともに、「彩夏祭」などの地域イベントが市民の手で継続して開催され、次世代に地域文化が歴史や伝統とともに継承され、郷土に対する愛着や誇りを持てるまちを目指します。

具体的な施策

(1) 歴史や伝統の保護・活用

主担当課：文化財課

《現状と課題》

地域の歴史や文化財について身近に接する機会が増え、次世代に地域文化が歴史や伝統とともに継承され、郷土に対する愛着や文化財保護の理解と認識を深めていくことが必要です。

学校との密接な連携により、こどもたちが郷土の歴史や文化を学ぶ機会を広げていくとともに、資料のデジタルアーカイブ化を促進し、ユニバーサルな視点で市民のニーズに対応していく必要があります。

《成果指標》

指標名(単位)・説明	
■文化財課が行う生涯学習事業の参加者総数(人) 文化財課が行う生涯学習事業の参加者総数	
現状値(R6見込)	目標値(R12)
23,000	25,000

① 文化財の保護・活用・伝承支援

重要文化財旧高橋家住宅をはじめ、市内に残されている様々な文化財を後世に伝えていくため、維持管理や修繕、保存環境の整備などを行っていきます。

② 地域資料の専門的調査研究とその成果の展示・公開

市民の学習ニーズに応えるため、地域に残された資料について、学芸員等が専門的・科学的に研究を行い、その成果を展示や講座で提供していきます。

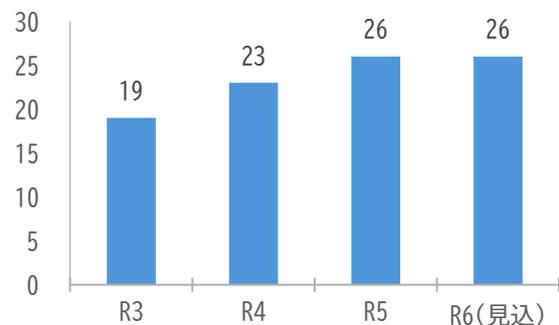
調査成果を刊行物やデジタルアーカイブ化し、継続的に研究成果が多くの媒体で使用できるように努めていきます。

③ 小・中学校等と連携した学習活動

小・中学校等が、来館や調べ学習の場として博物館や埋蔵文化財センターを利用するなど、学校教育の中の様々な場面で各施設を利用してもらうことで、より豊かに郷土の歴史、文化を学習できるよう、積極的に学校教育との連携を図っていきます。

<参考実績値>

博物館を利用した学校団体数(団体)



【関連する個別計画等】

- ・第3期朝霞市教育振興基本計画（令和8年度～令和12年度）
- ・第3次朝霞市生涯学習計画（平成29年度～令和8年度）
- ・朝霞市教育大綱（令和8年度～令和12年度）

指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
県・市指定文化財件数(件)	34	34	34	34
文化財保護関係団体の事業開催回数(回)	0	1	5	5
埋蔵文化財調査報告書作成件数(件)	2	3	2	2

② 発表と鑑賞の機会の充実支援

文化祭を通して、参加する市民が異世代交流を図ることで、地域コミュニティの活性化にもつながることから、こどもから地域の学生、高齢者、また障害者等全ての方が参加できる文化事業を開催します。

（2）芸術文化の振興

主担当課：生涯学習・スポーツ課

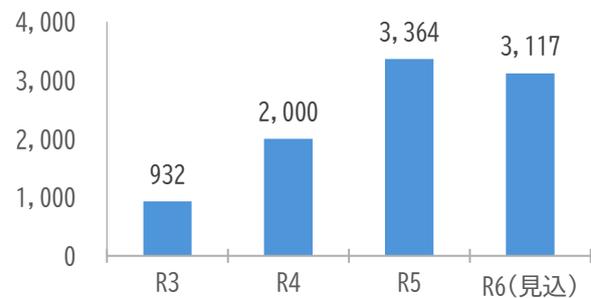
《現状と課題》

市民の芸術活動は、市民のニーズが団体活動に反映され、活発に活動する団体がある中で、高齢化が進み活動が続かなくなる団体も出てきており、次世代への伝承や後継者の育成を図ることが課題となっています。

様々な分野の文化活動を発信し、市民が伝統・芸術文化に触れ、体験する機会の充実を図っていく必要があります。

<参考実績値>

朝霞市芸術文化展延べ参加者数（人）



《成果指標》

指標名（単位）・説明	
■文化祭入場者数（人） 朝霞市文化祭への入場者数	
現状値（R6見込）	目標値（R12）
9,000	9,500

指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
市民芸能まつり延べ参加者数（人）	—	340	455	523

① 芸術文化の活動の充実支援

各芸術文化団体やグループ等と協働し、市民とともに参加しやすい文化事業を開催します。

芸術文化の継承に必要な次世代の担い手育成に努め、芸術文化事業を通して、多くの市民が心豊かで暮らしやすいまちを目指します。

(3) 地域文化によるまちづくり

主担当課：地域づくり支援課

《現状と課題》

市民が主役の朝霞市民まつり「彩夏祭」は、コミュニティ協議会加盟団体を中心とした実行委員会が運営する仕組みが確立されています。

人口の流出が多い都心のベットタウンである本市は、ふるさと意識が希薄になりがちで、独自の文化が育ちにくい土壌です。

このため、今後のまちづくりにおいては、ふるさと意識を形成し、市民が地元へ愛着と誇りをもてるよう、「彩夏祭」、「黒目川花まつり」、「朝霞アートマルシェ」、「どんぶり王選手権」などの地域イベントに代表される市民が共有できる地域独自の文化を、いかに市民の間に根付かせていくかが課題となっています。

《成果指標》

指標名（単位）・説明	
■朝霞市民まつり「彩夏祭」来場者数（人） 朝霞市民まつり「彩夏祭」への来場者数	
現状値（R6見込）	目標値（R12）
730,000	730,000

① 地域文化の発信

朝霞市民まつり「彩夏祭」、「黒目川花まつり」、「朝霞アートマルシェ」、「どんぶり王選手権」などの地域文化や郷土芸能などを、朝霞の魅力として市内外に知ってもらうためPRに努めます。

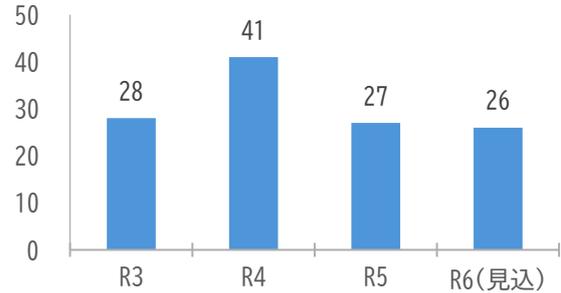
② 地域間・都市間交流の推進

市独自の文化を大切にし、より豊かな地域文化を育みます。

「彩夏祭」や「農業祭」への交流自治体の参加や交流先の地域イベントの市内開催など、活性化している地域間・都市間の交流をさらに推進し、まちの活性化を図ります。

<参考実績値>

災害時相互応援協定締結市相互交流回数（回）



指標名（単位）	R3	R4	R5	R6(見込)
朝霞市民まつり「彩夏祭」来場者数（人）(万人)	0	35	99	73